

平成29年度 第1回府中市子ども・子育て審議会議事録

▽日 時 平成29年7月19日（水） 午後2時～午後4時

▽会 場 府中市役所 北庁舎3階 第4会議室

▽出席者 委員側 汐見会長、平田副会長、関委員、山崎委員、臼井委員、井村委員、小口委員、木下委員、酒井委員、芝辻委員、田中（公）委員、角田委員、刀禰委員、富田委員、中田委員、畑山委員、佐藤委員（17名）
事務局側 遠藤子ども家庭部長、柏木子育て支援課長、二村子ども政策担当主幹、柳下保育支援課長、吉本保育支援課長補佐、坪井児童青少年課長、古塩児童青少年課長補佐、長嶋保育支援課管理係長、横山保育支援課支援計画係長、須田保育支援課認定給付係長、若山子育て支援課推進係長、徳永子育て支援課推進係職員、大沢子育て支援課推進係職員（13名）

▽欠席者 田中（仁志）委員、長崎委員、宮崎委員（3名）

▽傍聴者 なし

【次第1 開会】

事務局

委員の皆様こんにちは。委員の皆様におかれましては、お忙しい中本審議会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから府中市子ども・子育て審議会を開催いたします。

まず、資料の確認をさせていただきたいと思いますが、その前に事前に送付させていただいた資料2と、資料2の別紙について、一部数値の訂正がございましたので、本日改めてお手元に新しいものを配付させていただいております。恐れ入りますが、本日配付した資料をお使いいただき、お持ちいただいた資料がございましたら、事務局で回収させていただきますので、本審議会終了時に机の上に残しておいていただくようお願いいたします。

（※事務局 資料確認）

事務局

それでは、審議会の開催に先立ちまして、平成29年度より新たに本審議会の委員をお引き受けいただきました、府中市立小学校長会の代表者をご紹介します。

府中市立矢崎小学校校長の刀禰委員です。それでは、刀禰委員より一言ご挨拶をお願いいたします。

委員

4月から矢崎小学校に赴任してまいりました。矢崎幼稚園の園長も兼任しています。府中市は初めてでわからないことだらけですが、一生懸命やります。よろしく申し上げます。

事務局

ありがとうございました。

続きまして、事務局職員の異動もございましたので、改めて市職員の紹介をさせていただきますと思います。配付いたしました席次表をごらんください。席次表の順番に沿って自己紹介をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

(※事務局 自己紹介)

事務局

ここで改めまして、子ども家庭部長よりご挨拶をさせていただきます。

子ども家庭部長

改めまして、子ども家庭部長でございます。本日は本当に大変暑い中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

本日の審議会の件でございますが、子ども・子育て支援計画は、平成27年から31年の5年計画で、今年度29年度はちょうど中間年になります。皆様からは忌憚のないご意見をいただきながら、順調に計画が進んでいるところでございます。

しかしながら、本日この後ご審議いただくこととなりますが、計画当初の推計数値と乖離が出てきた状況で、やはり計画の一部見直しの必要性があるものでございます。事務局から府中市の考え方をご説明させていただきたいと思っておりますので、その中で審議会の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

それを受けて、この後の計画を進めていきたいと思っております。我々は来年度予算に既に着手している状況でございますので、それらも踏まえながら、ぜひご意見をいただきたいと思っております。

最後にもう1点、皆さんの任期が2年ということでございますので、本日の審議会をもって、今回の任期の審議は全て終了になると思っております。本当に最初にお話しさせていただきましたとおり、計画は順調に進んでおりますこと、皆様のご協力によるものと思っておりますので、心から感謝を申し上げます。本日も、ぜひともそのようなことで、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

簡単でございますが、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

事務局

それでは、議題に入る前に事務局より3点、ご報告とご説明をさせていただきます。

1点目ですが、本日の委員の出欠状況についてでございます。本日欠席のご連絡をいただいている委員につきましては、2名でございます。また、1名の委員におかれましては、遅れている模様でございます。

本日の会議は委員20名のうち、現在17名の委員にお集まりいただいております。出席委員数が過半数に達しておりますので、府中市子ども・子育て審議会条例第8条第2項に基づき、

有効に成立することをご報告させていただきます。

2点目でございますが、本日の審議会の傍聴についてです。府中市附属機関等の会議の公開に関する規則により、7月11日号の「広報ふちゅう」及び市ホームページで募集をいたしましたが、応募はございませんでした。

3点目でございますが、本日の審議会の時間配分についてですが、議題（1）、議題（2）をそれぞれ1時間程度とし、会議終了時間は午後4時ごろを予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは議題に入りますが、発言する際のマイクの使用について、前回同様ご協力をお願いいたします。

それでは会長、よろしくお願いいたします。

【次第2 議題（1）計画値を超える保育需要への対応について】

会長

皆さんどうもこんにちは。

きょうは、主な議題は1つなのですけれども、計画値を超える保育需要が今発生しておりまして、それにどう対応するかということについて、まず事務局からご説明いただきたいと思っております。

それでは、よろしくお願いいたします。

（※事務局 資料2「計画値を超える保育需要への対応について」を説明）

会長

ありがとうございました。

ただいまのご説明についてもう少し、ここはどういうことなのか等のご質問、それから計画の概略があったのですが、それについてのご意見等をご自由に出していただきたい。まずはこの表その他の見方についてのご質問がございましたら、お願いいたします。

もう1度確認させていただきますが、2つの数字が出ていて、AとBとなっておりますが、Aのほうは第6次総合計画に記載された就学前児童人口、それも予想値なのですが、それに基づいて算出した保育ニーズ量、これは、策定したのは平成何年でしたか。

事務局

平成25年です。

会長

25年ですか、大分前なのですね。第6次の総合計画に基づいて作ったのが平成25年で、それに基づいて保育ニーズ量、何人ぐらいの子どもたちが保育を利用するだろうというそのニーズ量を算出して、それに合わせて計画的に保育所の整備等をやっているわけですが、それからもう1つお伺いしたいのは、子どもの数、それから府中市の全体の人口は、

それほど増えていないのですか。大体横ばいですか。

事務局

人口としましては増えているのですが、就学前児童人口については、ほぼ横ばいで推移しています。総合計画上はどんどん児童数が下がっていくような見込みだったのですけれども、実際はほぼ横ばいで推移しているという状況でございます。

会長

ということは、府中市に移住してきている人が少しずつ増えているということで、子どもは全体としては減っているのですけれども、移住しているということで府中市の子どもの数そのものは大体横ばい状態が続いていて、子どもの数が減っているという状態ではない。

それからもう1つは、保育所を利用したいという人たちの潜在的なニーズが非常に高くなっていて、それが反映しているということもあって、平成25年ですから4年前に計算したときよりは、かなり多くの人たちが保育所を利用したいという意思を表明していて、これは児童福祉法その他でそういう希望があるときには、それに対応する義務が自治体にはございますので何とかしなければいけない、そういう状況だということでございます。

今、63名と137名と出してくださったのは横の表にございますが、ここで2番目に、推計ニーズと実績との乖離というのがございます。上は推計ニーズと計画ニーズの乖離なのですが、下のほうを見ていただいて、平成27年はこうだった、28年はこうだった、29年はこうで、30年というのが来年なのですが、平成29年に整備した結果30年があるわけですが、これが一番右のほうです。

ここで、もし保育施設整備をやめてしまいますと、今度は一番右の数字になりますけれども、ゼロ歳児で63名が入れない状態である。1～2歳児で137名、合わせて200名の子どもたちが、また新たに待機児童になっていくということで、この数を何とか減らすということがどうしても必要になってくるということです。

そうするとこれは、元の計画にはなかった数字になりますので、元の計画ではこれからどんどん保育所を建てるということはないのですが、それではこれに対応できないということになってしまいますので、例えば保育所をもう少し建てていくということをやらざるを得ない。今、市の部局としてはそうせざるを得ないのではないかとということで、その計画を進めようとしているのですが、それでよろしいですかということで、今諮られているのです。

数の見方等のご質問だけではなく、そのニーズをどう満たしていくのかということで、今のままでは6園ぐらい保育園をつくらなければいけないという計算でしたけれども、そういうことについてのご意見等もご自由に出していただければと思います。

委員

人数がこうなっているので6園ぐらい足りないというお話が会長からありましたけれども、この先その6園をどこに、どのぐらいの時期に開設するという予定はあるのでしょうか。

事務局

保育園の整備につきましては、今予定しているものとしては3園を2カ年度に分けて整備していきたいと考えております。場所につきましては保育の需要が高い地域、認可保育所につきましては公募で行っておりますので、事業者で立地等、定員等を含めて提案していただいて、市で選定をさせていただく公募制度をとっておりますが、その中で府中本市におきましては、より保育需要の高い地域を提案していた事業者を選定して、優先度としては高いのかなと考えております。現状としては、どこにというのはまだわからない状況でございます。

会長

まずは3園ということですね。もうちょっと詰めて、何とか方式でというのは、我々が考えるのは場所、例えば建物をお貸しするとか、建物も全部建てていただくとか、そういうのはまだ検討されていないですか。

事務局

今、府中市の現状で公募しているところなのですが、ここは方式を問わず、例えば土地をその法人が探してきて、それを借りて、その上に自分たちで建てるやり方、これがよくあるパターンです。さらに今よくあるのは、例えばマンションだとかその中の一室、特に最近で言いますと、4月に寿町の交差点のところにユープができたのですが、その3階に認可保育園ができたというのがあります。今のところ方式は問わずに、とにかく公募で、先ほどの地域や保育運営の質、安全面や運営面などを総合的に勘案して選定させていただいているという状況でございます。

委員

地域の公会堂とか公園とか、そちらを間借りするではないですが、前も会議で会長から、先は子どもが少なくなるというのが出ていますので、公会堂とかは結構いいところであって、意外にシャッターが閉まりっぱなしのところとかもあると思うので開けたらいいと思うのですが、そういうのは考えていらっしゃいますか。

事務局

まず、今公園という話がありましたが、こちらにつきましては、実は法が変わりまして、公園の中に保育園を作るというのは今まで特区という、特別に認められたところしかできなかったのですが、児童福祉施設をはじめ区施設等を作ることができる規制緩和がありました。昨年某区で、公園に保育園を作ろうと思ったら、住民からのすごい反対を受けてできなかったということもございますので、保育園を作るにはいろいろな公園だとか公会堂というお話もちろんあるのですが、現在府中市で公募という形でやっている中では、実はちゃんと手が挙がってきているという現状があります。公募にも手が挙がってこないという状況でしたら、またそういうところもちろん考えていかなければいけないのですが。現在公募してやっていく中では、必要数の法人から手が挙がってきている状況ですので、今後公園、また公会堂も使えるかというのは、地域の方々のご理解あってだと思っておりますので、検討事項の1つとさせていただけたらと思います。ありがとうございます。

会長

これは、0歳、1～2歳だけの保育園ではないのですね。今考えているのは。

事務局

5歳までです。

会長

5歳までですね。

委員

2点ほど質問させていただきます。

まず1つは、隠れ待機児とよく言われるもので、待機児にはカウントされないが、預けられるなら預けたいというようなニーズがかなりあると聞いています。これについて、推計の中に織り込まれているのかどうかという質問と、もう1つは平成31年に6園というところで見ますと、3号は赤字で足りないということなのですけれども、2号は黒字で余るということは、今まで府中市ではやらないとされていた新しい制度の地域給付型の0歳、1～2歳の施設で対応しようということも可能だとお考えでしょうか。

事務局

まず1点目の隠れ待機児と言われていることなのですが、例としては29年度4月の待機児童数、先ほど383名と申し上げましたが、これは国が定めた定義というものがございまして、こういう人は待機児童のカウントから除くというのがあるが、それが待機児童ということで公表されているのですが、実際申し込まれて入っていない状況の方というのは、府中市で言いますと750名ぐらいおります。ですから、倍近い人数の方が入れず、それが隠れ待機児みたいな形になるのですが、ちなみにこの隠れ待機児童の部分については、今回の計画の中では織り込まれてはいないという状況でございます。

それと、続いてのご質問の2号の数値なのですが、ここは今後の、特に次回からの計画を立てていく検討の1つだと思っています。この数値で見ますと2号の3～5歳がすごく空きが出ているような状況に見えるのですが、この数値の出し方にも問題がありまして、計画値と人口ビジョンであったり、そういう数値の絡みの中で算出していくと、こういう余りが出してしまうということで、実際は3歳・4歳にも待機児がいたり、あとは地域によっては空きが出ている状況です。保育園で申し上げますと、定員割れを起こしているところも若干あるのですが、この数値については参考程度ということでございます。

ここで、0～5歳までの保育園を作る計画が6カ所ということで考えておりますけれども、やはりまず、1つは保育園として0～5歳までというところが保護者のニーズが多いということもございまして、やはり一方で、教育を受けたい、いわゆる幼稚園を望まれている方もいらっしゃいますので、幼稚園の皆様方にも預かり時間の延長などをご協力いただいて、そちらも選択肢の1つとして考えていただくとか、そういうことも考えております。

そこが拡充していけば、0～2歳という限定した保育園もいけるかなということも考えておりますが、現在ではまだ0～2歳までだけで保育園を作ってしまうと、3歳以降の行き場がなくなってしまう可能性があります。数値上はあるのではと思われるのですが、実際はここまで余っていないというところから、現在の6園では0～5歳までを整備していきたいというのは、そういう結論でございます。

以上でございます。

副会長

副会長です。会長を前にして解説みたいな話で恐縮なのですが、推計ニーズ量と実績というのは、第5次総合計画も狂っていたのですね。今回は6次ですが、やはり推計と実績は狂っている。狂っているという言い方は悪いですが、当然出生率とか府中市の人が亡くなる率とか、いろいろなことで推計をしていくのだと思うのですが、これが推計よりも実績のほうが多いというのは、一言で言うと府中が住みやすいから流入する人が多いということだと思います。

東京都内でも待機児が多いところは、世田谷もそうですけれども、大体子どもを育てるには住みやすいというところは待機児が多い。府中市も、全く努力をしなかったわけではなくて、保育園を作ったり、いろいろなことをしているのですけれども、人気があるからどんどん増えてしまう。

でも推計をしていくと、間違いなく出生率は低いのですから、いつかは減っていくのだから、あまりめちゃくちゃには建てられないということだと思います。人気があるからよかったというわけにはいかないで、これからどうするという話なのですけれども、行政特区みたいな話が認定こども園だと思います。幼稚園に0歳、1～2歳も。園庭も広いし、施設も完備しているから、そこにやらせてしまえばいいとやったのだけれども、ちょっと制度的に問題があって、東京都は認定こども園になるところが2%まではいかない。そうすると、この問題は幼稚園と保育園が一緒になったような施設である認定こども園がきちんとできるような整備を、国なり都なりがきちんとすれば、府中市だけが苦しまなくても済むのです。これは結局府中市が人気があるというのは、東京に一極集中を勝手にさせている国がいけないのです。なおかつ京王線があって駅もたくさんあって、住みやすいから人が集まってくるのを、府中市だけが責任をとれというのは難しいことであって、だったら認定こども園のあり方みたいなものをもうちょっと考えれば、具体的に言うと予算の部分とか事務の部分とか、その辺をきちんとできれば、この問題はかなり解決に近づくのではないかという感想です。

会長

ありがとうございました。私が打ち合わせのときに言ったのと同じことを、認定こども園をどうしてふやす努力をしないのですかという話をしたのです。これはどこの自治体も悩ましいところなのですけれども、保育園に入りたいということで申し込んだけれども入れないという、一定の基準をつくって待機児とする。児童福祉法によれば、そういう希望があれば作らなければいけないとなっていますので、どんどん作るしかないということはあるのでし

ようが、しかし確実に、子どもの数はこれから減っていくわけです。出生率が大幅に回復しない限り、例えば2055年ぐらいの推計でいうと、子どもの生まれる数は1年間に50万人前後、今の半分。それは多少、これからの施策で入れると思いますけれども、現在100万人をそろそろ切ろうとしています。それがさらに、あと30年ぐらいで半分ぐらいまで減っていく。そうすると、今の同じ基準で幼稚園・保育園を運営していると半分は潰れてしまう、必要なくなってしまうわけです。

だから、私たちのように保育士養成等をやっているところも生き残れるだろうかということがあって、大変大きなテーマになっておりまして、幼稚園にしても保育所にしても子ども園にしても、単に小さなお子さんの教育をしているだけではなく、地域のさまざまな人たちがそこで活性化できる施設に少しずつ衣替えしていかない限り、きれいに減ってきた分だけ幼稚園・保育園が減ってしまうというのは、いかにももったいないということになります。ということで、作るのはいいのけれども、やがて減っていくということを考えたときに、柔軟に対応できることを考えていくということで、数をどんどん増やしていくのが本当にいいことなのかということになっていくわけです。

ですから今の既存の、特に幼稚園は上手に認定こども園として移行できて、運営上それでプラスになるということになれば、新しく作らなくても、幼稚園に努力していただければ、ある程度解消して、その点で府中市のいろいろお金を使うことについても、もっと整備できるのではないかとことがあります。ということをもう少し考えるほうが長中期的に見たら賢明ではないのかということがあり得るわけです。

けれども、これはいろいろな事情があって、東京都は今おっしゃっていただいたように、幼稚園の中で認定こども園に移っているところが多分全国で一番少ない。2%程度しかない。横浜などもまだ移っていません、京都も移っていないのですが、その最大の理由は、私が見たところ、東京都というのはこういう新制度が始まる前、幼稚園に対するさまざまな形の補助というのが、多分全国で一番しっかりしていたのです。隣の神奈川県は10倍ぐらいの金が東京都から出ていました。これが今度府中市の管轄になっていきますと、それと同じものを府中市が出せるわけがないのです。そうなりますと、東京都がそちらに移していった場合に府中市は大変だろうと、そういうところについてはある程度東京都が、従来の部分を補填するとかという形でやらないと、運営費は確実に下がってしまうわけです。それでは移行するといっても給料が下がるとかで、これは続くわけありませんから、実際はその辺のところを丁寧に吟味してスタートしたわけではなくて、先に制度ありきで行ってしまったものですから、そのあおりを食らったところは、逆に認定こども園に移っていたけれども、これでは減ってしまうからとやめているところもあるわけです。

だから、そのこのところ、府中市だけでは実は解決できない問題で、私どもも、私は今白梅幼稚園の園長もやっているのですけれども、認定こども園に移行したら、年間何千万円の赤字になってしまうというか、結局やめざるを得なかったということがありました。理念としてはわかるのですけれども、実際には制度的にうまく設計されていないということです。新制度は5年後に見直しですから、そのときにそういうことが本当にちゃんとされるのかどうかというあたりが課題ではあるのですけれども。そのあたり、この子育て会議の中でどういう意見を出すかということ、今はともかく他の自治体がやっているのと同じように保育所

をどんどん増やしていくしかないということで対応して、それもいろいろな業者さんにも参入してもらってという形で、府中市が全部経営していると、とてもではないですがやっています、ということでそうやっているのですけれども、ただその方策も、長中期的に見るとなかなか難しい。

それから保育園で、例えば企業がやっていく場合に、良心的な企業だったらいいのですが、そこは選定がとても大事なのですけれども、これは儲からないわ、もう来年からやめるなどと言って撤退されると、そこにいる子どもたちや親は路頭に迷うことになって、ものすごく大変な問題が起こるわけです。これは大変難しくて、簡単にやめることができない公的な事業なのです。ですから、そういうことをされても困るというのがあるので、保育園を作るということは、実はなかなか大変な問題なのです。

ということで、今はとにかく3園は手を挙げてくださいと言ったら挙げてくださっているということで、それはそれで何とかなるのだろうと思いますけれども、長中期的に見たときにこれを続けていくのかというあたりは、もう1つの大きなテーマになるということなのですね。

委員

今、会長から丁寧なご説明があったことに関連してちょっと質問なのですけれども、やはり中長期どうあるかというのはすごく大きなテーマだと思います。「一億総活躍プラン」とかを見たときに、地域共生社会という文脈で、例えば保育士と介護士の資格を統合する。年齢を問わず地域の拠点にする「我が事・丸ごと」みたいなキャッチフレーズで、10年計画とか20年計画が国のホームページに載っているのを見たことがあるのですけれども、中長期の文脈で保育園とか幼稚園とか、府中市でこうしようみたいな位置づけとかはあるのでしょうか。

事務局

具体的な、府中市独自で画期的なというものはないのですが、先ほど会長、副会長からも話のあった認定こども園というところは制度的な部分もあるというのはわかっておりますので、そうではない部分で、先ほどもお話しさせていただきましたが、働くイコール保育園みたいなところがあるのですが、ただそれでも教育を受けたいというニーズもすごく多くて、働いていても教育を受けたいというお声がある中では、認定こども園と似たような形になるのですが、幼稚園さんの活用という、活用という言い方をしているかわかりませんが、預かり時間の延長であったり、例えば2歳児を預かっていただくとか、府中市としては、施設をどんどん作っていくよりは、そういった部分が先々のことを考えるといいのかなと。

ただどうしても目先の、冒頭で話しました待機児が3年連続多摩でワーストワンというところでは、やはり施設整備という王道といえますか、待機児解消という部分のところはやっていかなければいけないのですが、それだけに頼っていくと、会長からも話のあったことが先には見え隠れしていますので、それ以外でも今後、今ご提案いただいた、例えば国だとか、東京都のそういった考えを酌みながら、府中市独自というのであれば一番いいのですけれども、そういうものも検討していけたらと。お答えになっていなくて申しわけないですが。

会長

保育ニーズの正確な計算をするときに、働く、あるいは保育を必要とするというカテゴリーなのですけれども、その他勉強するという人も条件さえ合えばオーケーになりますが、週に5日間フルに働いてというわけではなく、例えば午前中だけでもとか、週に3日は働きたいというような、そういう方は上手に利用すれば、例えば幼稚園の預かりのところが上手に活用していただくとか、一時保育の制度をもう少し充実させていってということで、週に3日だったら一時とは言えないかもしれませんが、それで何とかするとか、多様な保育形態を充実させて、そこに多少予算を割いていって、合計したら保育園を皆で作るよりは何とか合理的だというやり方もできるかもしれない。

そういう意味で、保育ニーズをもう少し正確に読むと、フルタイムで働きたいという人はこのぐらい、必ずしもそうではないという人は、なかなか正確にはつかめないと思うのですが、そういう調査はないのですか。

副会長

今年度から、2歳児の一時預かり事業というのが始まっているのです。幼稚園というのは、満3歳から小学校に行くまでしか預かれない。2歳児というのは、あらゆる補助金の対象にならなかったのですけれども、園児ではないのだけれども一時的に預かって、毎日来てもいいという制度が、今年度からできたのです。

できたのですけれども、書類は保育園専用みたいな書類だし、申請の仕方もまだ整っていないしという事務的な部分もあって、例えばうちの幼稚園だと、府中市にはいろいろ相談しながらぼんと出せるのですが、調布市からも200名近く来ているのです。調布市に電話をしてこういうのを始めるのですと言ったら、書類も全部送ったのですが、もう2週間ぐらい経つのですが、全く返事がなくて、これはもらえないのだったら、東京都の預かり保育推進補助金というのがあるのですが、それにしたほうがいいねと今悩んでいるところなのです。そういう意味では、2歳児に関しては幼稚園児ではないのだけれども、毎日預かっている子どもとして、幼稚園が預かれるような制度と、それに対応する補助金がありました。

そういう考えから言えば、1歳児で、幼稚園児ではないけれども、毎日預かる1歳児として幼稚園が預かるというのは、体制さえ整えばできないことはないと思います。2歳児はできます。今やっています。

会長

そういうことが整った場合に、上手に協力される幼稚園を確保できれば、このぐらいの数まではその形で、いろいろ親の希望もあります。フルタイムでどうしてもという人は優先すると思いますけれども、そういうことも計算した上で計算をするということが必要かもしれません。ただ、幼稚園も部屋に余裕があるとか、2歳児以上の部屋を作れるとかということがなければなかなかできないと思います。全ての園ができるかどうかはわかりません。

これは私たちも含めた市の、行政側の姿勢というのもあって、幼稚園さんにはその辺は丁寧をお願いするというのもしておかないと。幼稚園さんの中には0歳、1～2歳は家庭で

見ていただきたいという理念として、それを大事にしているというところも数多くあります。それはそれでよくわかるのですが、実態は今、核家族化の中で、家庭で必ずしも豊かに育てられるとは限らないと思いますから、そういう形で、では少し柔軟になるかと変わってきているところもたくさんあります。

委員

うちの問題でもあるのですけれども、今年うちの娘が年少さんに入って、まさに今夏休みなのですが、幼稚園によって夏季の預かり保育がある園と、全くない園というのがあります。今、年少の幼稚園に友達が入ったのですが、ここはお昼つき幾らとかお昼なし幾らとか、全くないというのが結構話題になっています。「子育てのたまたま箱」などは、延長保育については書いてあるのですが、夏休みのことは書いていなかったもので、やはり仕事をし始めたら、夏休みというのが保育園と幼稚園の大きな壁にもなっていますので、幼稚園へ協力をお願いするときに、夏休みのとかの協力体制は、もうちょっと市からも情報を出していただけたらと思います。

会長

副会長からもありましたが、こういう子ども・子育て会議だとか、子育て支援というのは、どちらかというと上の団体というか、役所にいくと、厚労省にいくことが多いのです。ところが今、幼稚園となっていくと、幼稚園は教育局ですよ。それをずっといくと文科省に行きますね。ですから、文科省の下へいくと教育委員会なわけです。例えばこういうところをまわるのは指導主事さんとかで、また別の職種になっているわけですよ。保育所とかは厚労省で、認定こども園は内閣府が親会社なのですね。そうすると、自治体ごとに子ども・子育て会議をやりますと、保育所だけではなくて幼稚園さんということになっていくのだけれども、統括しているところは、もともと子育て支援だとか保育所をやっているところ、これは厚労省関係になるわけですね。だから、厚労省関係のパイプだとか、仕事の仕方とかということは扱いやすいのだけれども、幼稚園さんにはどのパイプでいくとか、そういうのが以外とパイプがなかったり、人脈がなかったりということが、実を言うとあちこちで起きているのです。それで、幼稚園のいろいろな可能性を込めて相談するというよりは、保育所を増やして対応してしまっているところが実際には多いように思っているのです。それはそれで1つのやり方ではあるのですが、ただ先々を考えたとき、きのうも実は厚生労働省の子ども家庭局、今まで児童家庭局と言っていた、局長と話をしていたのですが、もう保育園は文科省に移そうという話を僕はずっとしているのです。教育的な機能が大事になってくるのだったら、もう厚労省は終わったという話をずっとしているのですが、それは、彼らもそうですねというわけです。

ということで、ここの仕事が大変難しい局面であって、保育園・幼稚園については、認定こども園もそうですが、むしろ文科省にお任せしたほうがいい。そして子育て支援ということでもう少しよくやるところは厚労省がやるという形で、分担のほうに移るといった可能性が少しある。

ご存じかもしれませんが、国で3歳からの保育料の無償化を今準備してしまして、それは

1兆2～3,000億円かかるので、子ども保険というのをやるかどうかというのがあるのですが、そうなると、無料というのは別に幼稚園だけでは困るわけで、保育所も無料に。4時間分ですけれど。ということになっていくということで、管轄を三重にしておくところとどんどん難しくなってしまうので、管轄を一重にしていくということがやがて課題になっていくわけですね。

ということで、こういうプランを考えるときに、すぐに保育所を増やすというふうにはしか発想しづらいところはあったのですが、もう少し幼稚園さんとパイプを密にしながら、幼稚園が手を挙げる可能性というのも見えていかないと、あまり総合プランにならない可能性もあります。これは一般論なので、それとこれは、かなり実はあることなのですが。府中市は、その辺はどうなのですかということなのです。

事務局

府中市での、幼稚園・保育園の関係ですが、これまで新制度になるまでは、保育園はもともと保育課というのがあって、その管轄でやっていたのですが、幼稚園は、教育の観点から学校にあり、あとは保護者に対する補助金だけがあったこともあって、管轄がはっきりしないところもありました。それがこの新制度になって、保育支援課が管轄になったものですから、我々の中では両方が見られる形にはなるのですが、先ほど副会長からお話がありましたとおり、調布との関係とか、そういうところが本当に行政の縦割りというか、市役所の中でもあるのですが、また他市になってしまうと、そこは話をいただいた中で、我々が先走ってしまった部分もあったので、ちょっと反省すべきというところで、そういった連携も必要なのだと改めて反省したところです。

ただ、これから子どもは、都とか国がどういう形になっていくかというのがありますが、我々としては保育支援課で対応させていただくので、さまざまな、待機児であったり教育であったり、そういうところも含めて考えていくことができるのかなと考えているところです。

副会長

さっきのご質問ですが、うちの場合は年間245日開園です。夏休みは21日間。冬休みが6日間、春休みが17日間あります。なので、大体保育園は250日ぐらいですね。ですから、ほぼ保育園並みです。土日はやりませんが。

市役所の方は言いにくいでしょうが、幼稚園というのは行政の指図なんか一切受けないというのが基本的な立場です。利用調整というのですが、保育園のように申し込みを受けて、市役所がどここの保育園に行きなさいというのではなく、自分たちの幼稚園で自分たちの園児を集めている。直接経営といいます。ですから、自分たちで集めて自分たちでやっているのだから、市役所なんかは何もお世話になっていない。これは極端な話ですよ。でも、だからそういう指図は受けませんということと、再度申し上げますが、東京都の幼稚園は非常に恵まれているので、夏休み全部休みと言っても、園児は来てくれるところが多いのです。府中市なども、ほとんどの幼稚園が募集した人員ぐらいは来ているのです。

ただ、いずれ減っていくのだから、何とか手を打たないということなのですが、職員の待遇も夏休みがたくさんあるから、ふだんは残業してもいいみたいなことがあったりして、そうい

う就業規則とか働き方とかの部分もきちんとした上で、夏休みとか冬休みとか春休みも保育をしていくという体制を整えていかないと、幼稚園が対応するのはなかなか難しい部分がある。ですから、これは自分のところですが、そういう体制を整えた上で2歳児にも手を出していくようにしないと、すぐにオーケーというわけにはいかないので、夏休みも当然、雇用するときに夏休みは休みと言っているところがあるのです。そうすると、もう雇用契約が違ってきてしまうので、給料をあげるけれども休みとか、そういう幼稚園もあるのです。いいとか悪いとかではなくて、そういう実情があるということです。

それから、1日の保育時間は4時間というのが基準で、それ以上は預かりになるのですが、それについては余分にお金をいただかないということなので有料になっている事情がありますが、いずれ東京都も減ってくることもあれば、会長がおっしゃるような何らかの形をとらないと生き残れないというのはどこでもあると思います。

会長

おっしゃるとおりなので、幼稚園さんの多くは、特に日本の場合は私立が圧倒的に多いのです。行政によっては公立の幼稚園を作ってきたところもあるのですが、例えば横浜の人口は360万人で、公立の幼稚園はゼロで、もともと1つありません。全て私立の幼稚園です。そうしたら私立の場合は、私学助成という形で、私立には本来国から金は来ないので。建学の精神にのっとり、自分たちが育てたい人を自分たちの方法で育ててくださいということなので、お金も自分たちで集めてくださいという、それが原則なのです。

しかし実際に早稲田・慶応というのは、公立・国立の大学と同じように社会に必要な人材を輩出して公的な役割を果たしているのに親が全部負担しなければいけないのはおかしいということである程度は私学助成でやっているのですが、それは直接税金を振り分けるのではなくて、私学助成財団というところにまとめてお渡しして、それをそちらで配分してくださいと、その配分の役割を東京都がやっているわけです。ですから、今まではここにある私立の幼稚園も私立の小学校も、府中市は1つもタッチしていないという、そういう関係です。

それから子どもが増えたりとかというときに、結局自分たちで集まって努力していくしかないわけですから、役所のお世話になったということは1回もありませんというのが、実は誇りでもあるわけです。そのあたりの文化とか歴史の違いがあるので、福祉施設として発展してきた保育所と微妙なスタンスの違いがあって、新制度ではここにある私立の幼稚園も、府中市が管轄することに移ったわけです。ですが、急にそんなことができるわけではなくて、徐々に徐々にそうやって、府中市にある幼稚園も保育園も、皆で顔を突き合わせて、何とか子育てしやすいまちにしていこうという方策を探っていくしかないわけです。

大変難しい時代です。子どもはどんどん減っていくことが見えている中で、ちゃんと経営が成り立っている。ついでに言いますと、厚労省と文科省の姿勢の違いでもあるのですが、例えば幼稚園を企業が経営するということは、原則認められていません。保育所は、企業が経営することはオーケーになっています。これは、人を育てるという大事な仕事に、営利企業が参入することはもともと合わないのではないかという、学校関係者のプライドですね。だから、今でもそれはちゃんと文化の違いとしてあります。そういう点でも行政としては、保育所だったらいろいろな企業も手を挙げてくださいますようになるのですが、幼稚園はだめですと

なりますから、簡単に同じようにやれるという感じでもないのです。そういう文化を作ってきたというプライドみたいなものが、幼稚園には強くあります。

これから幼稚園も保育園もないのだという、一緒にやっていくのだということになっていて、そのあたりをほぐしていくような行政側の努力も必要になってくるということで、この子ども・子育て会議が少し、待機児童はこんなにいるのだけれども、全部保育所を作るという形でやるしかないですかというのにもう少し、もっと市にあるリソースを最大限活用する形を模索できないかという議論をしてみることで、少しきっかけができるかもしれない、そういうことをいつも感じているわけです。

委員

もしかしたら話がずれてしまうかもしれないのですが、「たっち」の事業が在宅で子育てをしている方が中心にいらっしゃる場所なので、もちろん市役所の窓口もそうなのでしょうけれども、利用者さんというか、子育てしている方の生の声を聞く機会が非常に多いので、確かに転入でいらっしゃる方も非常に多くて、府中は子育てしやすいと聞いてきたのだけれども、保育所になかなか入れないですねみたいな声がすごく聞かれるというのもあります。在宅で子育てを選んでしている方ももちろんいらっしゃるけれども、そうせざるを得ないという方が非常に多いということ、日々感じていることが多いです。

保育所のしおりを配っている関係もあるので、保育所の申請の時期にいらっしゃる方たちが多いというのはもちろんありますが、やはり今、まだ妊娠中であってもそういうことを聞きにいらっしゃる方が多かっただけというところがあるのと合わせて、待機児がこれだけいるという現況の中、私たちでもリフレッシュ保育と一時預かりをやっているのですが、時間だったり日数だったりということで、就労目的ではなかなか使いにくいところですが、そういう一時預かりの問い合わせとかも結構多いです。ただ、今、一時保育をやっている民間の保育園さんとか認証保育所さんにお問い合わせをしても、大体皆定期利用で埋まってしまって、在宅の方がちょっと使いたいということで使えないという声が非常に聞かれています。なので、うちの保育のニーズも一旦落ちていたのが、ここ数年件数が多かっただけというところがあるので、今そういう保育を必要としている方に目を向けなければならないというところはあるとは思いますが、在宅でちょっと預けたいという方は使える何かを、幼稚園の一時預かりみたいなものを利用されているという方もいらっしゃいますが、そういうところも同じように拡充していただけたらありがたいところがあるかなと思います。

会長

一時預かりはやっているの。

委員

「たっち」ですか。やっているのですが、1日が4時間までということなので、それでも使われる方は、今は結構多いです。

会長

専門性ということもあるので、保育士資格を持った人がやるということがあると、それは安全・安心だということになっていくと思うのですが、いろいろなところでもう少し一時預かりを拡充していくという形で、毎日働きたいと思っているわけではないという人たちが、そこで吸収されていくということをやっていないと。全部保育所とやってしまうと、なかなか大変ですね。

これは別に結論が出るものではないのですが、いろいろな意見を出していただいて、この後の参考にさせていただこうということだけですが。特に、こういうのはどうかということでご意見がございましたら、事務局に後でまたご連絡をいただければと思います。

確認をしないで進めてしまったのですが、結局きょうの議題は、先ほどの数値目標を、63名と137名というのを新たにつけ加えて、これを解決するための施策ということを、私たちとしては了承したということによろしいでしょうか。

(※委員了承)

【次第2 議題(2) その他】

では、このあたりでこの議題は切らせていただいて、もう1つ議題がございました。「その他」というところです。

実は先ほど、部長からご挨拶があった中で、この子ども・子育て会議の今期は多分これで、緊急のことがあれば別ですが、最後になってしまう可能性があるということで、これからの府中市の子ども・子育て関係の行政のために、任期を終えられる各委員の皆様から、こういうことに関わってみてというご感想とか、本当は言いたかったのだけれどもなかなか言えなかったのが今言っておきますとか何でも結構ですので、今後のために少しご意見をいただきたいと思っております。

よろしいでしょうか。では、こちらからいいですか。済みません、ご自由をお願いします。

委員

お世話になりました。あまり予備知識もなく入ってきて、意見もできませんでした。ただただ聞いて「ほう」と思うばかりだったのですけれども、私は妊娠して府中に来ました。産まれておたおたしている間に幼稚園に入れなきゃ、近所のどこにしようという感じで、たまたま入ったところが白糸台幼稚園で、すごく良くしていただいて、きょうだいもいたのですが、迷うこともなくずっとお世話になって、満足な子育てをさせていただきました。私が知らないうちに預けて育ててもらった環境を、皆さんが作ってくれていたというのを、もちろん幼稚園の先生がしっかりしていらっしゃるしやっただというのがあるのですが、全体、周りであったり市であったり、いろいろなことを考えてくださっている人がいたというのを改めて感じて、すごく感謝しております。

ただ思ったのは、私たち親からすると子どもが何年間かを思う存分楽しんでほしい、いろいろなことを学んでほしいという思いで、その際に家にいるだけよりは私は外の環境に、いろいろなところから刺激を受けて欲しいという思いで幼稚園を選んだのです。仕事もしてい

なかったから保育園という選択肢もなく、幼稚園もそんなに予備知識がなかったので、近くのことということで入れていただいたのですが、結果私はすごくよかったです、その際にいろいろな条件があって、そうできない方たちもいっぱいいるというのも改めて感じましたし、親の思いもそれぞれだと思うのですが、いろいろなことを皆さんが考えてくださっていることに、とても感謝しました。そして、私がたまたまいい境遇にいられたことに、さらに感謝しました。ありがとうございました。

会長

ありがとうございました。

委員

先ほど申しましたけれども、私の子どもがこの春幼稚園に入りまして3～4カ月なのですけれども、子どもの成長のすばらしさと、自分の劣化を日々感じる今日この頃でございます。

4歳になってすごく大きくなったなど、ほかの子どもさんが、府中市はやはりいっぱい子どもが生まれているので、この子の後輩がどんどん生まれていると思うと、審議委員の一員として、よりよく育ててほしいと思いながら見ております。

ただ、この社会の風潮で、保育園が足りないとか、たまたま自分は環境的に子育てにずっぽり携わっているのですけれども、預けた者勝ちみたいになっていたりとか、本当に育てようと思っているのみたいな、私預けたいのだけどもみたいな、この間も事件がありましたように、放置したりとか、子どもは誰かに預けてみたい若いママたちもいるので、その辺は勘違いではないかなというのは、子育ての会とかでお母さん方と話すときに思うこともあります。かと言ってやはり子どもの数が増えないことにはどうしようもないというのは、会長のセミナーなども聞かせていただき、本当に子どもの可能性が高いと思うので、これからは府中市は子どもを育てやすいまちということで発展していただきたいし、自分もその一員として何かお役に立てたらと思います。どうもありがとうございました。

会長

ありがとうございました。

委員

私は、むさし府中商工会議所の、商工業に携わる各会社の事業主を代表してということで、この委員会に参加させていただきました。従業員を使う立場から、従業員のお母さんたちから、子どもを預けるところがあれば、保育園ですけれども、働けるのだけれどもという声がよく聞かれたところです。特に、府中市の保育所へ入れてみたいのだけれども、まず入ることが難しい。入れれば働けるのだけれどもという、本当に残念な従業員の声をたくさん聞いておりました。できれば、全員の方が待機児童にならずに入ってくればという、そんな形を少しでもサポートできればと参加させていただきましたけれども、やはり大変難しい問題であるということを痛感しております。

商工会議所では、ここで切れるのですけれども、もう2年間続投せよという命令が下りま

したのでまた一生懸命勉強を、足りないところはたくさんありますけれども、皆さん方のご意見をいろいろと聞きながらやってまいりたい、そんな気持ちであります。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

会長

どうもありがとうございました。

委員

市内で子ども・若者の自立支援にかかわっている立場で、子ども・子育て支援関連団体ということで参加させていただきました。今回は保育の話が中心だったのですが、この子ども・子育て支援計画の中では、83ページの青少年健全育成活動の推進というところで主にかかわらせていただいております。

今回いろいろなことが勉強になったのですが、「おぎゃあ」と生まれて学校に行き始めた子どもたちが必ず問われるのは、自立だったりするのです。多くの審議会とか、子ども・子育てを考える中では、いわゆる直接関わっている関係者しかいない場合が多いのですが、我々のように自立にかかわっている団体も、この審議会に席を設けてくださったところが、府中市さんのすごく先進的なところだと思っています。

ちなみにこの83ページの青少年健全育成活動の中で、これは昭和のころに始まったものなのですが、通常非行対策ぐらいまでなのですが、しっかりと引きこもりやニートなど、社会的に自立困難を抱える人に対して、市としてどうするのが書かれています。その中で特筆すべきは、府中市独自に市勢調査をされまして、家族に引きこもりなどいらっしゃいますかというのを調べられたのです。実は、家族に引きこもりがあると答えた数は、若者世代に3%ぐらいいたのです。これは、実はあまり注目されていないのですが、かなり画期的な発見なのです。今までは、国とか横浜市が推計し、1.57%という推計値がつくられていたのですが、横浜市の担当者に聞いたのですが、実感値からするとすごく少ないのです。この前なぜですかと聞いてわかったのですが、横浜市さんは、「あなたは引きこもりですか」という調査をしたのです。これが実態なのです。府中市さんは対面調査で1,000人の方に対して、「あなたの家族にいますか」と、より実体がわかるような調査をされたのは、本当に日本の中でも誇るべき調査だと思います。そういった実体化を図る中で、今日皆様に審議されたように、子どもの子育てや自立についてどう考えていくのかというのをこれからも、私は退任するのですが、一緒に考えさせていただければと思います。

お世話になりました。ありがとうございました。

会長

ありがとうございました。

委員

社会福祉協議会では、困りごととかそういったことを地域の中で解決していく仕組みを作っていくまいというので、今いろいろな活動をさせていただいているのですが、子育て

てに関しても、昔は結構近所の方々が子どもを見てということもあったと思うのですが、今はそういったこともなかなかないと思いますので、地域で顔の見える関係を作って、お互いに支え合っていきましょうということを推進しているところです。地域の中で子育て関係のサロン活動とか、高齢者の活動などでもいろいろな方に来ていただいて、お互いに自分の役割を見出していったりとか、その中で、例えば高齢者の方が子育ての方と一緒にいると、子どもを見て子育てについていろいろと学んだりとか、そういったこともあると思いますので、そういった地域の関係を支援していきたいと考えています。

今日も待機児童のお話があったのですけれども、私の個人的なところなのですが、私も子どもを育てながら仕事をしておりまして、子どもが3人いるのですが、一番上の子に関しては、1年半認可の保育園に入ることができなくて、認可外のところに、年度途中だったということもあるのですけれども、待ったということがありまして、仕事をしながらそういった保育園のことを考えなくてはいけないというすごく大変だった時期もありましたので、この審議会の中でもいろいろなご意見をいただいて、府中市の子育てが良くなっていくといいと思っています。ありがとうございました。

会長

ありがとうございました。

委員

事業者としてお話しさせていただきます。昭和50年代には、まだ保育園というのは7園か8園ぐらいしかなかったのですが、今は私立保育園ですが、34園にもふえて、なおかつ待機児童が多いという事態になっています。

私どもが今一番困っているのは、保育士不足なのです。募集はしているのですけれども来てくれない。処遇の方も上げてはいるのですけれども、なかなか来てくれないという時代にはなっているわけです。

今後、保育園が6園増えるというお話ですけれども、保育の質の担保ができるのかどうかというのが事業者として一番心配しているところです。この会議においてもぜひ、質というものを考えていただければありがたいと思います。

以上です。

会長

ありがとうございました。

委員

中学校の校長会の一員として、この会に参加させていただきましてありがとうございました。いろいろな観点から勉強させていただいたということで感謝をしております。中学校の校長として接しております保護者は、今日の話題のような待機児童等の大問題については何とか乗り越えて、我が子が中学生になっている状況だと思います。中学校の中でよほど年の離れたごきょうだいがいない限りは、待機児童等が保護者会で話題になるようなこともあり

ません。

ただ、今回こうやって学ばせていただいて校長として気づいたのは、保護者の方々は、ある意味でこういった大きな課題から卒業されたわけですから、そこで、どうやって乗り越えてこられたのかとか、ノウハウをある意味ではお持ちなので、卒業生の方々の声として、現状の改善に生かしていくべきなのか。この意味では、中学校もある意味で役に立つことがあるのかなと思っています。中学校では、こうした話題が出るのは保護者の方よりも職員。若い職員がどうしよう、働き続けるにはどうしたらよいのか、どこに預ければよいのだろうかと言って、校長先生どうしましょうかと相談を受けることがあります。これは今回の会議の内容とは違う話かもしれませんが。今後の方策としては、建物と、そこで働く人材を継続的に活用していけるようにするというのが、多分本日の命題でもあったと思います。

府中市の例ではないのですが、新しく学校を建てるときに、将来的に高齢者施設に転用されるということを念頭に置いて建物を建てるとか、そういう自治体もあると聞いたことがあります。きっと府中市もお考えになられていることだと思うのですが、こうしたことも大切にしていかなければいけないと、思っておりました。

以上でございます。

会長

ありがとうございました。

委員

ちょうど今年の3月、初めてこの会に出させていただいてきょうが2回目ということで、まだ勉強中というか、これから勉強していきたいと思っております。

きょうもちょっとお話の出た認定こども園について、前回のときも僕は認定こども園というのに対して、1回五反田ですか、施設を見学したこともありまして興味を持って、そのとき会長や副会長からも、経営的に見た場合、なかなか厳しいというお話が。きょうもいろいろと補足のお話を聞かせていただいて、行政の壁というか、いろいろな障壁があると思うのですが、やはり社会資源を有効に使うためには、そういう壁を1つ1つ壊して、なるべく投資のかからない中で、待機児童の解消に結びつけられればいいなと思っています。

私は民生委員・児童委員として、先ほど委員さんからもお話がありましたように、今「我が事・丸ごと」ということがすごく、地域共同社会という中で言われているわけなので、そういう意味では民生委員としても、高齢者の方からお子さん、全ての面でいろいろと受けとめて、自分たちのこととして一緒になって解決して、相談していきたいと思っています。

そういった意味で、これからまた皆さんと一緒に勉強して、教えていただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

会長

ありがとうございました。

委員

私は東京都認証保育所の、府中市の連絡会の代表として出ています。府中市には16の認証保育所があって500人、全体を5,000人人とすると大体1割ぐらいの園児を引き受けていることになります。

特に私がこの会に出ていて非常によかったと思うのは、認証保育所の人気がいま一つという1つは、保育料の問題があります。認証保育所というのはもちろん補助金をいただいているので東京都府中市の指図を受けているのですが、自分たちで園児を集めてという独自のルールでやるとなっているわけですが、保育料を園独自で決めて、私どものところは0歳児を月曜日～金曜日で預けると大体5万円から6万円ということで、認可保育所の2倍から3倍と言われていました。実はこの中で高過ぎる、そこを是正していこうということで、補助金が今年から非常に増えまして、これは東京都の予算を付けたということがありますが、この計画から実施を、この会に出ながら報告を受けて、見ることができて、非常にうれしく思います。

今、待機児解消で、今後いろいろ計画で、認証保育所というのは当てにされていないのですけれども、実際はやる気のある業者もおりますし、ただ規模として小さいので寄与度は低いのですけれども、ぜひ認証保育所はだめだということのないように、もし利用があれば、待機児童の解消に協力していきたいと思います。

以上です。

会長

ありがとうございました。

委員

私どもは、府中市の小学校の中にあります、放課後子ども教室、「けやきッズ」と呼ばれておりますけれども、そちらの住吉小学校、第五小学校、第七小学校をお預かりしております。学童さんとの違いを、皆さんご理解いただけないことが多いものですから、ちょっとこの場を借りてもう一度ご説明いたしますと、子どもの見守りという立場なのです。小学校の空き教室を拝借しまして、放課後に子どもたちの宿題を見てあげる、遊びの提供をしてあげる、安全な見守りをしてあげるということから始まった事業です。

ただ、保護者さんが学童さんとの違いがなかなかわからなくて同じような要求をしてこられるので、そのところをどう説明したらいいのか。それと、私たちの放課後子ども教室「けやきッズ」のよさをどう持っていったらいいのかというのが、今一番こらえどころかなと思っています。

お子さんのこの会に出させていただいて、府中市のお子さんの大きくなって、小学校に上がってくるまでの状況を勉強させていただいて大変ありがたかったのですけれども、家庭の中での最低限の教育というのが心配な面が多々あるのです。なので、そこがどうやって改善されていけるのかなど、懸念しているところがあります。

ありがとうございました。

会長

ありがとうございました。

委員

府中市立小学校長会ということで来ましたけれども、今日初めてだったので2年間の総括は言えませんので、このまま引き続き次回からも参加させていただきますので、そこで何か気づいたことがあれば話したいと思います。よろしくお願いします。

以上です。

会長

ありがとうございました。

委員

その前に1つ、さっき質問し忘れたのですが、市立の幼稚園がありますよね。それが少しずつ廃園になって、全部なくなってしまうのかどうか、小さい子がいないのでわからないのですが、ただその幼稚園を利用して、跡地に保育園を建てるとかできないのでしょうか。それは後でいいです。

それで、産前産後サポート事業をされていてどうしてもわからないことがあるのですが、これから出産するという方のところにお邪魔したときに、おなかがこんなに大きくて、もう臨月を迎えているのですが、仕事しない、要するに専業主婦はこんなに楽なのですねとおっしゃるのだけれども、それはあなたは上の子を保育園に預けているからでしょうと言いたいのですが、本当はそんなはずはないのです。それが私の不思議なことなのですが、預けるということは自分が仕事をしていて面倒を見られないからとか、病気だからとか、それから上に障害の子がいるからとか、要するにその子に手をかけてやれないので預けるのですよね。それが産休とか育休のときに、やっと仕事をしないでうちにいられて、その子と一緒にいられる時間があるのに、なぜ保育園にやるのですかというのが、私はどうしてもわからないのです。というようなことを考えながら、日々暮らしています。

以上です。

会長

そのあたりは、若いお母さんの本当の気持ちをもう少し私たちもつかまえなければいけないところもあるでしょうね。

委員

私は府中市青少年委員会という、先ほど委員さんからもありましたけれども、青少年の健全育成の団体、小学校4年から高校3年生までの地域の、ジュニアのリーダーを育てるところから出てきておりますが、仕事が幼稚園の園長ということで、副会長と同業です。

一般の形で項目算定の話が出てきているのですけれども、会長のほうから話を聞くと、認定こども園になぜ移行しないかということ、定員が100人前後が一番適する、それ以上です

と補助金が減るので、どうしても移行しない。わざわざ補助金が減るところに手を出す人はいないので、多分東京都内のところの幼稚園というのはもっと、150から多いところは副会長もそうでしょうし、私のところもそうですけれども、300以上のところが結構多い。手は挙げられないというところがある。地方ですと、100どころかその五乗ぐらい、いっぱいいっぱいのところだと定員を上げざるを得ないというのが実情です。

子ども・子育て会議は、私も東京都の幼稚園の会議も出て、いろいろな地域の先生と話すと、やはり地域が違くと品物が変わるといふか話がかみ合わないところがあって、各地区で悩んでいるところがあるのかなというのが現状です。子育てについても各地区のそれぞれの体制や考え方、当然地域も違うのでそれぞれ、そちらのものをこちらに持ってきてほしいか、なかなかそうもいかないということがあります。それと先ほども言った、用紙1つをとっても統一してくれないとしようがないというか、副会長もありましたけれども、こちらはこの用紙でいいのだけれども、そちらを出すときはこの用紙ではないと言われてしまうと、どれだけ事務作業が増えるのかみたいなこともよく聞く話というところから始まって、会長もおっしゃっていたように、根本のところの、厚労省と文科省の話のところからやってくれないと、下のほうの我々は動きようがないのかなと、何となく結論づいてしまっていると個人的に思っています。

ここでいろいろと勉強になりました。次回も出てきますので、どうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。

会長

ありがとうございました。

委員

ふだん実際お子さんとか、子育て中の保護者の方と接している場面が多いので、それぞれの役割だったりとか、お立場からのご意見とか考え方とかを聞くことができたのは非常に勉強になりました。ありがとうございました。

会長

ありがとうございました。

委員

きょう会議に来て職員の方に、子育て支援会議ということで参加してみたのだけれども、待機児童の話がほとんどでしたねと話していたのです。

私は子どもが好きで3人いるのですけれども、母が遠方だったり、若くして亡くなったりとかいろいろなことがありまして、夫も自営っぽい、サラリーマンと違って不定期な時間の仕事だったりするので、どうしても自分1人で3人、大変なこともあり、真ん中のお兄ちゃんが普通の幼稚園、3歳児で幼稚園に入る年齢のときに、保育園に上の子も入れていたのですけれども、下の0歳児の子どもも嫌々ながら保育園に申請しなければいけないみたいな感じの余裕がある中で、今みたいに待機、待機と言わなくても入れるような時代だったので

すけれども、結果そこで預かっていたら、3番目の子どもは他人の手によって賢く育ったかなど。そこで、今は核家族ですから、ほかの人の手も必要だということは、すごく痛感するのです。

私は個人として、数年前から「ママランチ」というのをやって、若いママたちと、赤ちゃんが生まれる前からのママたちとおつき合いして、1月1回ずつとその子どもの育ちを見せてもらったりとか、去年子ども食堂というのを取っかかりに、前から不登校の子どもとかがすごく気になって、実は子育てのここら辺が、今の時代一番大変だと思っていて、府中市にも不登校対策、子どもの居場所をやってくださいと、何回も何回もしつこくやっていて、出すたびに笑われるのではないかと思います。

そういうこともあって、子育て支援会議はどんなことを話すのだろうと思って参加させていただきました。だから、自分が思っていたのとはちょっと違ったというのはあるのですけれども、いかに今の時代が保育に関しても子育てに関してもすごく多様で大変な、複雑な時代になっているということと、あと前から市役所の中に職員さんで知り合いの方とかもいるのですけれども、本当に大変だなと。

府中市の職員の方、皆一生懸命やっても、外から入ってくると、マンション業者さんは儲かっている。いいと行って入ってきて、それで待機児童一生懸命やってもなかなか解消せず。この先またちょっと行くと、多分学級崩壊とかいろいろ起こってくると思うのです。小学校の教室をまた増やさなければいけないというのと、あと、もともと長年積み立てての人間関係などが見ていないところの人がいっぱい増えてきてしまうので、そういう話も年長になると聞いてくるのです。そこら辺は子育て支援、これからもっともっと話し合っ、不登校の子もすごく増えていると思うのでぜひ、私は自分のことも忙しくなったので、今回で、これからは参加していられないのですが、今後待機児童、本当に大変だと思いますけれども、それ以降のところもぜひ、府中市の方、一生懸命やっ、いらっしゃるのはわかるのですけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

会長

ありがとうございました。

副会長

幼稚園に携わって私は40年を超えたのですが、一番最初のころから幼保一元化という話があったのです。今は一体化とか言っているのですが。私が幼稚園に入ったころは、府中市の幼稚園の担当は総務部文書課でした。その後、子育て支援課だか何かというのになって、その後教育委員会があつて現在に至るのですが、府中市の体制を批判しているのではなく、会長がおっしゃるように文部科学省と厚生労働省が一緒にならないで、子どものためという視点でやらないからいけないのです。

だから、内閣府がまとめようなどと言っているのですが、お互いになかなかまとまりませんね。幼稚園の業界では、保育園がつくっている認定こども園というのがあつたのです。あそこは保育園由来というのです。私が思うくらいですから。あそこは幼稚園由来。同じ認定こども園なのに、東京都の担当課が幼稚園由来と保育園由来で違ふのです。こんなばかなこと

をやっているから、いつまでたってもねと。もっとうまく幼稚園を利用してあげれば、一番最初の会議のときに申し上げたのは、幼稚園と保育園の垣根は間違いなく低くなっている、間違いなく。幼稚園は保育園に近づいているし、保育園も幼稚園のいい部分を取り入れていただいている。なのに、上があっちだこっちだということをやっているから、やろうと思ってもなかなかうまくいかない部分があるので、大上段ですが、子どものためにという視点でいろいろなことを言いますが、府中市だって頑張っているのだから、国はもうちょっと何とかしてほしいと思います。

以上です。

会長

私は別に国の立場を代表しているわけではないのですが。ただ、今おっしゃってくださったことは、本当に切実な問題で。ただ、私は昨日、大阪で新しい幼稚園教育、保育所・保育士、それから認定こども園の教育、いわゆる学習指導要領、これは幼稚園は教育要領、保育所は保育指針と言っているのですが、公的には同じものです。それが改定されて、来年の4月1日から施行されるのですが、今年1年間は学習しようということで、今月は国が初めて正式に説明会を開くということで、10日に東京で、18日は大阪で、25日に九州で、全国から担当者を集めてやるのです。

それが画期的なことだと思ったのですが、内閣府・文科省・厚労省共催なのです。要するに、幼稚園の先生、保育園の先生、認定こども園の先生全員に集まってもらって、そして一緒に説明を受けるということなのです。なぜかというと、今回の指針とか要領を作るとき、それを前提としてやっていたのです。別々のものを作らない。幼稚園も保育園も認定こども園も、3歳児のところは基本的に同じ内容にするということです。

調べてみたら、長い時間保育されている子と短い時間保育されている子と、そういう違いはあるけれども、そこで行われている教育の内容について違いがあったら絶対におかしい。ですから、今回保育所の指針にも「幼児教育を行う施設」と明記されました。保育所が幼児教育を行う施設と、はっきりと国が明記したのはこれが初めてです。もう区別はしないということなのです。それで、できたら10年後の改定の際には、幼稚園も保育園も認定こども園も一本の指針でやるという可能性はかなり高いです。それぞれが独自にやることは、また独自にやっていただきたいということで、これは世界中の保育・幼児教育の世界はほぼ一元化してきて、幼稚園と保育園の区別はなくなっているのです。日本でいうと、認定こども園に近いところが一本になってきているということなのです。それは、全て文科省管轄です。

それから、ほとんどの国は3歳以降の保育料はただです。フランスのように3歳からの義務教育だとか、ハンガリーも3歳からの義務教育に昨年変更されました。

ということで、今までは幼児教育というのはオプションというか、希望によってだったのですけれども、必ずしも、今まで家庭で育てても、それは地域で群れて遊んだり、親の仕事を手伝ったりと、いろいろな体験ができて、そこで育ててというのが前提であって家庭があったのです。ところが群れて遊んでいる子どもなど1人もいないし、朝から晩までお母さんとずっと向き合ったまま暮らしている子どもたちのメンタルヘルスは必ずしも健康に育つわけではない。ちょっと預けたいと思ったとき、それができない大変さ、ちょっと外に行

って遊んでおいでと出せない大変さというのが普遍化していますから、かえって息詰まる環境の中でがみがみ言われている子どもたちよりは、プロがいる、そしていろいろな遊び道具があって、仲間もいる、先生がいる、専門家がいるというところで頼って丁寧に育てもらったほうがよく育つということは、これは世界の小児精神科医の学会で当たり前のように、こうなったらできるだけ早くからそういうところへ行ってもらわないと、子どもがちゃんと育たないということになってきたのです。今はそういう方向に動いてきているのです。だから日本も今3本になっていますけれども、どこかの段階で1本になると思います。

それから、例えば厚労省もおととい7月17日、雇用均等児童家庭局というのが今までの部署だったのですが、なくなりました。子ども家庭局にかわったのです。労働と子育て・保育というのをくっつけた、雇用均等児童家庭局、これは2001年にできたのですが、それから10何年たって、労働問題をそこで全部一緒にやるというのは時代に合わないということで、子ども家庭局1本にしてしまいました。労働のはまた別の局になっています。その中に保育と子育て支援というのが柱としてあるという形に変わらして、これもいろいろと考えて実態に合わせようとしているということだと思ふのです。ですから、今、副会長がおっしゃったように、現場はもう必死になって苦勞しているのだけれども、上の枠がなかなか変わらないために、ここから先は進まないという問題が幾らでもあるのです。それが少しずつ変わっていく時代が始まっているのかなと私は感じていまして、どんどん注文を出していったほうがいいと思います。

それから、そのあおりを受けて、この子ども・子育て会議、それからその後ろで私たちにいろいろ諮問してくださっている部局のほうも、本当はいろいろなことをやらなければいけないのに、この支援計画の目次を見ていただければわかりますけれども、この会議で本当に議論しなければいけないことは、例えば目次のところに、具体的展開で施策目標1というのは、地域で安心して出産し、子育てができる環境、2は質の高い幼児教育・保育の提供、3は母と子の健康支援、4はひとり親家庭の支援、5は配慮が必要な子どもと家庭への支援、6は青少年の健全育成、7は子育て家庭の経済負担の軽減という、この7つの柱でやるということになっているわけです。本当はもっとあると思いますけれども。だから、ここで議論するというのは、それぞれの数字目標を淡々と追いかけるというのはもちろん大事なのでしょうけれども、例えばもう少し新しいやり方、今日出ていた、保育所を増やすというだけではないやり方はないのかということがいっぱい出てきました。そうすると、それは皆で知恵を出し合っていくしかないわけです。

例えば、ニュージーランドは比較的上手にやっている国なのですが、ある時期に、まちの角、角にちょっと預けられる場所、ファミリーセンターをつくる。そこは子育ての何でも相談をするし、お母さんが疲れていたら2階で寝ておいで、私が見てあげるとか、よろず屋なのですが、日本で言うとコミュニティカフェみたいなもの。それをちゃんと作りましょうみたいなことを呼びかけて、手を挙げてもらって、これがかなりうまくいっているのです。

だから、あまり狭い目的があるのではなく、これから高齢者が孤立しないように、そこへ行ったらおいしいものがしかも300円ぐらいで食べられるという、そういうちょっとしたカフェをあちこちにつくって、そこに子育てしているお母さんがしょっちゅう来て、「済みません、買い物したいので見ていてくれますか」「いいわよ」とやってくれるようなところとか、

ちょっと預けられる場所とか、何でも相談できる場所とかを何とかつくっていけないかということも議論しているとか、先ほど引きこもっている若者とか、不登校の子どもたちのためのフリースクールに対してある程度、国で支援するし、学校に戻すということではなく、そういうところで育てていくということをやるという法律ができました。まだあまり知られていないのですが、要するにこれだけ増えてきて、幾らやっても学校へ戻そうとすればするほど、学校を拒否している子どもたちを無理に戻すということには物すごく無理があるということ。でもそういう子どもたちも大事な大事な社会の人材なのです。その子たちに学習のチャンスが与えられていないというのはやはりおかしいということで、フリースクールなどをもっと応援していくという法律がやっとなりました。

そういうことがあって、それを反映したときに、何か府中でもできないかということ、子どもたちが元気になって、実際に、川崎などは「フリースペースえん」という、川崎市がお金を出しているフリースクールがあるわけです。そこを卒業してアメリカの大学の先生になったりとか、ブラジルの有名な芸術家になった人などがいっぱい出ているのです。だから、むしろ普通の学校ではないところで伸びた子どももいるということで、そういうところを参考にしながら、府中は不登校の子どもたちが物すごく元気になっているというのを、何とかつくりたいかとかということもここで議論することができる、もっと、本当に子育てしやすいまちですねという期待が出てくるような気がするのです。

待機児問題を何とか解消するということがどうしても前面に出てきて、そしてレットルを張られますから、府中市はワーストワンだとか。それは何とかしなければいけないというのは、それだけでもうかなりエネルギーが費やされると思うのだけれども、ここのミッションというのはそれだけではなくて、もっと府中市らしい、府中の歴史的な遺産だとかを大事にしながら、新しい、子育てしやすいまちをつかっていくという、そういうことなので、この委員会ももう少しそういうことが議論できる場所になればいいというのを改めて思いました。

それから職員の皆さんの中に、そういう勉強会をやるとかというようなことがあると、もう少し動きやすいかななどと思いましたが、だから全員集まらなくてもいいから、何とか勉強会をしますから、希望者は来てくださいというような、そういう形でもいいのかなと思いました。

このメンバーでは今回で解散になりますけれども、そして引き続きお願いされている方もいらっしゃると思いますけれども、子どもたちのためでもありますけれども、府中というまちのために必死になっていいアイデアを模索し合いたいと改めて思いました。

私は府中と直接の関係は何もないのですが、関わり合ってしまったというのはしょうがない。でも本当にいいまちだと思います。

どうも本当に2年間ありがとうございました。

事務局

それでは事務局より1点、連絡事項がございますのでお伝えさせていただきます。

本日の審議会の会議録につきましては事務局で作成いたしまして、後日委員の皆様にご確認の依頼をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

また委員の皆様には、平成27年から本審議会においてさまざまなご意見をいただき、多

大なお協力をいただきましたこと、誠にありがとうございます。今後も引き続き、本市の市政運営へのご理解・ご協力を賜りますように、改めてお願い申し上げます。

会長

最後に部長さん、ご挨拶を。

子ども家庭部長

また私で済みません。本当にこれまでご審議をいただきましてありがとうございます。最後に委員さんのお話でもあったように、待機児問題だけになってしまったというご意見・ご感想があると思います。ただ、この審議会の中には待機児問題だけではなく、今回お集まりいただいたのは、冒頭にもお話しさせていただきましたとおり、計画との乖離で早急に何とか対応、ご意見をいただかなければならないという状況で、きょうはあえて議題を絞らせていただいた状況でございますが、皆さんのおかげで、府中市全体の子育てのご意見をいただきながら、我々は進めていけるところがあるのかなと思っております。

あわせて、最初にご紹介できなかったのですが、この計画の中には当初なかった子どもの貧困ですとか、生まれる前から子育てを支援していくという考え、妊娠期から子育てをどう支援していこうかという新たな子育ての課題に対しまして、今年度から新たに子ども政策担当という形で先ほどご挨拶させていただきました二村が担当に入りまして、今後の計画を進めているところでございますので、そのようなこともこの後、ある程度の形がまとまったらこちらの審議会にもご相談をさせていただきながら進めていきたいと思っております。

我々行政で考えている課題も、まだまだ見えていないところが、市民の皆様の中にはそこが見えていると思いますので、忌憚のない意見を今後も期待申し上げますので、本当にこれからもよろしくごお願い申し上げたいと思います。

これまで本当に、忌憚のないご審議をいただきましてありがとうございます。

会長

ありがとうございました。

それから、8月26日土曜日の9時から、先ほど言った教育機会確保法という不登校の子どもたちのための法律ができて、それをどう理解・応用していくかという、NHKのEテレで1時間番組がありますので見てください。

では、これで終わります。どうもありがとうございました。

以上